

# 麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 総合科学部門

職階 准教授

氏名 三澤宣雄

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

## 1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

専任准教授且つ研究室の担当教員として、主に1、2年次配当のコンピュータ演習・実習、統計学・情報系授業を担当し、研究室においては卒業論文指導を行っている。

1年次の選択科目のコンピュータ演習・実習（生命・環境科学部の臨床検査技術学科および環境科学科においては前期必修、食品生命科学科においては後期必修）について、現在、非常勤講師や特別講師の先生方のご協力のもと、本学の全ての学科の新入生を担当している。着任以来、学生の入学以降のコンピュータの円滑活用につながるスキル習得に責務を負っている。また、選択科目である情報系の授業を獣医学部の獣医学科および動物応用科学科1年次配当で担当しており、学生の情報学分野の基礎知識の涵養を担っている。

令和7年度は獣医学科4年生2名および仮配属の3年生1名を担当しているため、卒業論文指導教員として卒業研究・論文作成の指導に携わっている。研究室生の自主的な研究姿勢をより育むとともに卒業後の様々なポジションでの任務遂行に活かせる課題解決能力の育成を念頭にして卒業研究の指導に取り組んでいる。

| 科目名        | 学科・専攻    | 単位種別 | 配当年次 | 受講者数(単位:人) |
|------------|----------|------|------|------------|
| コンピュータ演習   | 獣医学科     | 選択   | 1年次  | 88名        |
| 情報科学技術     | 獣医学科     | 選択   | 1年次  | 123名       |
| 生物統計学      | 獣医学科     | 必修   | 2年次  | 132名       |
| コンピュータ基礎演習 | 獣医保健看護学科 | 選択   | 1年次  | 47名        |
| コンピュータ基礎演習 | 動物応用科学科  | 選択   | 1年次  | 116名       |
| 情報処理論      | 動物応用科学科  | 選択   | 1年次  | 79名        |
| 生物統計学演習    | 動物応用科学科  | 必修   | 3年次  | 163名       |
| コンピュータ実習   | 臨床検査技術学科 | 必修   | 1年次  | 85名        |
| コンピュータ演習   | 食品生命科学科  | 選択   | 1年次  | 22名        |
| コンピュータ演習応用 | 食品生命科学科  | 必修   | 1年次  | 50名        |
| コンピュータ演習   | 環境科学科    | 必修   | 1年次  | 78名        |

## 2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

教養の情報系科目を担当していることから、1、2年次の授業を主に受け持っている。そのため、情報科学分野の基礎知識を初学者にも極力わかりやすく伝え、獣医学部の学生にとってなじみの薄い分野にも興味を抱いてもらえるような教え方を心がけている。その実現のために、より専門的な知識よりも一般的な理系学生の素養として身に付けてほしい知識に絞った内容としている。

現在、高等学校のカリキュラムでは情報の授業があり、さらに大学生のコンピュータ利用は不可欠である一方で、キーボード入力等に不慣れな学生もいまだに一定数散見される。そのため、新入生のコンピュータ演習・実習の授業ではパソコン利用時に必要な最低限且つ2年次以降での研究活動に資する知識やスキルの習得に重きを置いている。

特定の学問分野に限らず、学生が自ら積極的に学び、工夫する姿勢が自然と身につけてほしいと考え、そのきっかけを提供することを主たる教育理念としている。

## 3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

初学者にも理解・実践でき、且つ既に技術や知識を有する学生にも満足がいくような教育を目指している。机上の内容のみではなく、実際に教室外でも活用できるもしくは経験する場面を想定した内容を盛り込んで教えている。講義では難しい数式や複雑な概念には極力触れないことを重視している。また、理解が遅れる学生に対してもできる限りの範囲でフォローしている。学生からの問い合わせには極力早めに対応し、質問や疑問を訊くハードルを下げる雰囲気づくりを心掛けている。特に学生からのメールでの問い合わせで不躰な文言を受け取る場合もあるが、そのような場合は故意ではなく、単なる浅識や経験の乏しさに起因していると考え、助言とともに丁寧に対応することを教育方針の大事な要素としている。

### (1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

コンピュータ演習・実習においてはPowerPointを用いた各学生による自己紹介プレゼンテーションを行っている。また、Excelでの統計処理習熟のために、学生自身に独自に仮説検定データの収集と統計処理を実践してもらい、Wordにまとめた上で模擬的な卒業論文として発表する機会を設けている。情報科学技術・情報処理論の講義では理解度を上げるために試験対策用の問題を提示した上で要提出とはせず、自主的な課題として取り組んでもらった。

### (2) ICTの教育活用

有

令和7年度は完全に対面形式で授業を行った。しかしながら、場合によってはGoogle Meetを利用した過去の録画動画を数日中にLMSへ保存・閲覧可とし、やむを得ず欠席した学生がオンデマンドで受講したり、出席学生も復習として活用したりする機会を設けた。

## 4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

演習・実習では進行の遅延を招かない限り、理解や操作が遅れていそうな学生のために何回か同じ説明や手順を繰り返し示している。そのため、学生の表情や動きに極力気を配るようになっている。コンピュータ演習・実習の授業では学生が座る席を固定することで、学外からの不正な出席送信を防ぐと同時に出欠動向や授業態度の把握に役立てている。

### (2) 学生の理解度の把握

C

授業内や学期の中間にて課題や確認試験に取り組んでもらい、その結果から学生の理解度の把握を試みているが、理解度の低い学生の原因解決には至っていない状況である。特に令和6年度および令和7年度はそれぞれ情報処理論および生物統計学演習の授業において、単位を落とす学生が例年になく増加したため、今後は授業内で示す問題を試験対策としての課題であることを強調し、積極的に取り組んでもらう予定である。

### (3) 学生の自学自習を促す工夫

C

講義においては基本的には予習が不可欠な内容ではなく、その場で初めて見聞きして得る感動を大切にしたいこともあり、授業前の自学自習の促進には至っていない。初年次のコンピュータ授業では、学生同士でお互いに教えあいながら進められる工夫を講じたいと考えている。演習・実習では授業内に完了しない課題については提出まで二週間の猶予を設けて、翌週でも質問を受け付けて対応しているが、まだ不十分な印象がある。

### (4) 学生とのコミュニケーション

B

「3. 教育の方法」にて前述のとおり、メールや来室での質問には丁寧に対応しており、研究室では所属学生とのフラクナ対話を心掛けているが、彼らの学業・研究進捗の完全な情報共有までには至っていない点を反省している。一方で、メールでの対応に依存し過ぎないように極力対面での対話を心がけたい。それにより各学生の詳しい状況が把握できればと考えている。

### (5) 双方向授業への工夫

A

過去の対面授業の特に座学では授業時間中に質問があがることはほとんどなかった。しかし、対面授業中にメールでの気軽な匿名質問を歓迎したところ、想定以上に学生からの質問やフィードバック等が多く、部分的ではあるが、双方向性の工夫はできていると思われる。

### (6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

該当なし

## 5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

説明や板書のスピードが速いという意見が散見されたため、極力ゆっくりと丁寧に説明するようにした。また、試験が難しかったという意見もあつたため、授業内で重要なポイントをこれまで以上に強調して説明した。

### (2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

概ね改善したと考えたが、少数ながらやはりまだスピードが速いという意見があつた。理解が難しいポイントや試験でつまずきそうな箇所に注意を向けてくれたようで、試験結果は改善傾向にある。

### (3) (2)を踏まえた次年度の取組

授業での説明や板書のスピードの確認を行う予定である。試験対策用の課題について、よりいっそう丁寧な解説を試みる計画である。

## 6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

これまで試験的に行った“学生が自分自身で作問した上でその模範解答も考える”取り組みをもう少しブラッシュアップしたいと考えている。理解力がある学生にはより興味を引きそうなトピックを紹介し、学力や知識欲の向上を促したい。

### (2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

授業に関する評価は授業評価アンケートの通り概ね好意的である。研究室の所属の獣医学科の学生は卒業研究に積極的に取り組んでおり、また、試験勉強に集中できる環境である点も学生から感謝されている。

## 7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

可能な限り積極的に参加しており、研修の内容によっては全学的な学生の学力分布や今後の入学者層の動向予想を知ることができ、参考にしている。

## 8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

授業評価アンケートから「授業時間外の予習復習にかける時間」が低いため、この点を改善する。一方、他科目において課題等が多いことを懸念し、彼らの処理能力を十分考慮して極力負担にならず且つ実のある授業時間外学習を考案したい。学生の学習実態をより把握するために授業評価アンケートの回答率をさらに上げることを目標にする。ここ数年は入学年度によっては学生の理解度にむらがあることが感じられたため、授業の早い段階で学生の理解力の状況を把握することに努める。

## 9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

担当各科目のシラバス、担当各科目の授業評価アンケートの結果